

開成中学入試問題分析 令和3(2021)年度

一

〔出典〕

最上一平『銀のうさぎ』所収「系」(1985年1月1日/新日本出版社)

〔内容〕

第18回日本児童文学者協会新人賞受賞の短編集。

〔著者〕

1957年山形県生まれ。児童文学作家。2001年『ぬくい山のきつね』で第41回日本児童文学者協会賞、第19回新美南吉児童文学賞受賞。2010年『じぶんの木』で第21回ひろすけ童話賞受賞。2019年『ためきの花よめ道中』で第24回日本絵本賞受賞。

〔引用部分の寸評〕

1

児童文学作家として高く評価されている作者による、主人公の少年を中心とした心情描写が、押しつけがましくなくちりばめられた秀作。

△問題レベル▽

- 1 本文中の記述内容を組み合わせるだけの基本問題
- 2 本文中の表現を生かしつつ、積極的な再編集が求められる標準問題
- 3 本文の内容を元に、適切な表現を自らで用いて表現する必要がある発展問題
- 4 本文の内容を深く汲み取り、適切な表現を自らで用いて再構成する必要がある難関問題
- 5 本文の精緻な読解と豊富な語彙力に加えて、前提となる高度な教養が求められる最難関問題

問二 1行目傍線部②「きのうまで履いていた物なのに、もう何年もどこかでほこりにまみれていた、きたない物に見えた」とありますが、そのように見えたのはなぜですか。五十字以上、七

十字以内で説明しなさい。「レベル3」

○ ー行目傍線部②「きのうまで履いていた物なのに、もう何年もどこかでほこりにまみれていた、きたない物に見えた。」

↓なぜ「きのうまで履いていた物なのに、もう何年もどこかでほこりにまみれていた、きたない物に見えた」のか？

↓3行目「前々から遠足にはいて行くズックを買ってくれるように頼んでおいたのに、明日が遠足だという今日になっても、まだ買ってもらえなかった。」

↓8行目「拓也はズックのことで、何か言うのではないかと、ときどき目のはしで見るのだが、ゆるるとたばこの青いけむりが上がっているだけで、いつもと少しも変わらなかった。ズックと、のどまで出かかったが、みそ汁といっしょに飲みこんで、母親の方をにらんだ。」

↓13行目「今日じゆうに町に行って、買ってきてもらわないことには間に合わないの、拓也は片方のズックを、つまむように持ち上げて、もう一度ねだった。」

2

↓「遠足にはいて行くズックを買ってくれるように頼んでおいたのに、明日が遠足だという今日になっても、まだ買ってもらえ」ていない

↓1行目「土間で拓也が長くつをはいていると、そのわきにペチャンコになった貧相なズックがあった」

↓自分が欲しい新しいズックと現在の「貧相なズック」との落差が際立って感じられた

↓「遠足に」新しいズックを「はいて行」きたいが、「まだ買ってもらえ」ず、自分が欲しい新しいズックと貧相なズックとの落差が際立ち、嫌悪感を覚えたから

「解答例」 遠足に新しいズックをはいて行きたいが、まだ買ってもらえず、自分が欲しい新しいズックと貧相なズックとの落差が際立ち、嫌悪感を覚えたから。(67字)

「部分点」 遠足に新しいズックをはいて行きたいが、まだ買ってもらえず…5点 自分が欲しい新しいズックと貧相なズックとの落差が際立ち…5点 嫌悪感を覚えたから…5点